

札幌市における新生児搬送困難例についての声明

先日札幌市より発表された早産児の搬送困難事例の報道に接し、日本全国の新生児集中治療室（NICU）責任者を中心に構成される新生児医療連絡会およびその会員は、患者とその御家族の方に深い哀悼の意を表明すると共に、沈痛かつ重大な思いをもって受け止める事を表明します。

戦後に始まる我が国の新生児医療は、周産期医療ネットワークの構築を通じて世界で最も低い新生児死亡率を達成するなど、新生児の医療向上に貢献してきました。しかし近年 NICU 病床が不足し、各地で搬送困難事例が問題となっています。その背景には NICU を必要とする新生児の出生増加に加え、いわゆる長期入院症例の増加、さらには新生児担当医師の不足が内在し、能力を超過した医療需要に対応するため医療の質全体への影響とあわせて苦悩が続いています。今回の経過について詳細は把握できていませんが、痛恨の極みと言わざるを得ません。

われわれ新生児医療を担当する医師は、今回のようなことが決して繰り返されることのない医療体制を目指して、搬送体制の見直しを含む新生児医療の再構築に向け最大限の努力を行ってゆく所存です。つきましては、行政ならびに社会におきましても一層の御理解と支援をお願いさせて頂きたく、よろしくお願いたします。

平成 20 年 12 月 4 日

新生児医療連絡会

会 長 梶原真人

事務局長 杉浦正俊

役員一同